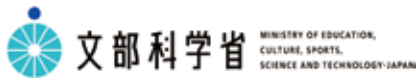


東日本大震災からの教育復興プロジェクト



OECD 東北スクール

OECD TOHOKU SCHOOL



OECD 東北スクールとは？

東日本大震災からの地域復興の担い手を育てる教育プロジェクトです。福島大学が主催し、文部科学省と OECD が協力し、被災三県の中高生約 100 人が 2 年半にかけて展開する長期にわたる国際プロジェクトです。

チーム〈環 WA〉

福島・宮城・岩手三県の中高生が中心となってプロジェクトを展開し、東京や奈良、パリの若者たち、賛同する自治体や企業など、多くを巻き込んでいきます。キャッチフレーズは「私たちは、過去を超えます。常識を超えます。国境を超えます。」で、ロゴマークに象徴されています。



目的

地域の復興のみならず、日本の未来を切り開くイノベーション能力、具体的にはリーダーシップ、企画力、創造力、建設的批判思考力、実行力、交渉力、協調性、国際性などを、プロジェクト学習を通して身につけます。また産官学が連携し、これまでにない超領域のネットワークを構築し、教育改革へ結びつけていきます。

組織

被災地の 9 つの地域に、東京、奈良、パリの生徒も応援団として加わります。運営事務局を福島大学におき、ローカルリーダー（地域指導者）、エンパワーメントパートナー（応援団）、アドバイザーボード、ハイレベル円卓会議、各県教育委員会などの協力団体、賛助企業・財団、パリの協力者などによる重層的なネットワークによって成り立っています。



スケジュール

2 年半の期間内で各地の地域スクール（地域ごとの復興プロジェクト）、5 回の集中スクール（全構成員が一堂に会して学習、活動）、テーマ別活動（イベントを組み立てるための活動）を展開します。



東日本大震災からの教育復興プロジェクト



統括責任者 三浦浩喜（福島大学理事・副学長）

運営事務局 事務局長 七島貴幸

〒960-1296 福島市金谷川1番地 福島大学内

Tel: 024-503-3803

Email: info@oecd-tohoku-school.com

OECD シニア政策アナリスト 田熊美保（OECD 本部）

2, rue André Pascal - 75775 Paris Cedex 16

Tel: +33 1 45 24 92 65

Email: miho.taguma@oecd.org



<http://www.oecd-tohoku-school.com>

OECD 東北スクールのおゆみ

■第1回集中スクール（2012年3月25日～30日、福島県いわき市）

バーバラ教育局長から「2014年パリから世界に東北の魅力をアピールせよ」というミッションが下され、OECD 東北スクールが始まりました。生徒達によるチーム〈環〉も誕生しました。「復興とは何か」「批判的な考え方とは」「戦略とは何か」などのインプットの後、生徒達による地域復興のプレゼンテーションが行われました。

■第2回集中スクール（2012年7月31日～8月4日、福島県いわき市）

未来を表現する巨大アートや大人熟議、テーマ別のプロフェッショナルによるワークショップ、パリで活躍する方々へのインタビューなどが行われました。最大の目的はパリでのイベントの基本線を決めること。生徒達の努力にもかかわらず、決定にまでは至りませんでした。「東北のこと、世界のこと、僕たちはあまりにも知らなすぎた」という言葉が印象的でした。

■資金調達活動（2012年12月25・26日、東京）

チャリティイベント Cheer! NIPPON! に招待され、アスリートとの懇談やチャリティグッズの提供を受けました。また、ユニクロ・ファーストリテイリング社で生徒によるプレゼンテーションを行い、高く評価され、その後の資金調達の基礎を築きました。

■第3回集中スクール（2013年3月26日～29日、宮城県気仙沼市）

新たな参加者も加わり、イベントのコンセプトやチーム〈環〉のロゴマークなどが決まりました。イベントの基本的な枠組みや各チームのアトラクションも決まってきました。広域でのコミュニケーションを活発にするために iPad が全員に貸与されました。下村文部科学大臣との懇談会ももたれました。

■パリ事前視察（2013年5月1日～6日、パリ市）

生徒代表 16 名と大人 15 名で、協力依頼も兼ねたパリへの事前視察を行いました。OECD 本部での関係者会議で生徒からプロジェクトの紹介がありました。また日系企業のレセプションで、生徒が協力を呼びかけました。パリ日本人学校や図書館の生徒、OECD 日本政府代表部や日本大使館、他の機関との協力関係を築いてきました。

■第4回集中スクール（2013年8月4日～7日、東京オリンピック記念センター）

イベントをさらに具体化し、テーマ別活動の今後の展開について話し合いました。また、皇太子ご夫妻をお招きしての「取組発表会」、および企業 60 社を招いての「関係者交流パーティー」が開催され、生徒達が積極的に協力を呼びかけました。OECD 教育局の A・シュライヒャー氏、H・ガボー氏、ガビー・H 氏らを招いての大人熟議も開催し、スクール外からも参加がありました。生徒達は都内のいくつかの企業でプレゼンテーションを行いました。

■公開リハーサル（2013年12月25日～28日、福島県いわき市）

いわき市内の小学校とリゾート施設の 2 会場で公開リハーサルを行いました。イベント会社にも協力を得て、ドミノやバルーン、鹿子躍、各チームのブースなどが披露されました。また夜には、調達した資金とイベントのすりあわせをする厳しい会議も行き、一定の方向性を出すことができました。

■第5回集中スクール（2014年3月22日～25日、岩手県滝沢市）

最後の集中スクールとなり、これまで課題としてきたことをふり返りながらワークショップを組み立てました。原発事故に関する討論、コアメッセージの議論を前日に行い、イベントのさらなる具体化をめざして、話し合いが進められました。未来を考えるワークショップや東北のブランディング、100 の物語などの課題もこなしました。

■OECD フォーラムとラフォル・ジュルネ・オ・ジャポン

5月5日～6日、OECD フォーラムに二人の生徒が招待され、参加してきました。フォーラムへの高校生の参加は初であり、東北スクールも含めて、世界中の関心が集まりました。「レジリエンス（粘り強さ）」をテーマとした二人の生徒の発表は、すべての参加者から拍手をいただきました。安倍首相は基調講演の中で OECD 東北スクールを紹介しました。

また、5月3日から5日にかけて、フランスのアーティストによる音楽祭ラフォル・ジュルネ・オ・ジャポンが開催され、その中で東北スクールのブースを出すことができました。伊達のゼリーや南三陸のわかめなどが売り切れ、注目を集めました。



東北復興祭 in PARIS

—死と再生、未来へとつなぐ—



「死と再生、未来へとつなぐ」がメインテーマ。プロジェクトのゴールであるこのイベントは、パリ市当局の特別な協力を得て、2014年8月30・31日にかけて、エッフェル塔の下に広がるシャン・ド・マルス公園で開催されます。東北の魅力の世界に向けて紹介し、東日本大震災の津波と復興を象徴するバルーン群やドミノ、被災の語り、生徒達の過去・現在・未来を綴った「100の物語」のパネルが会場を取り囲み、福島県・宮城県・岩手県を中心とした地域ブースと、協力をいただいている企業ブースが祭を盛り上げます。

また、9月2日には、OECD 本部中庭への桜の植樹のセレモニー、「私たちの学校、私たちの未来、2030年の学校」をテーマに、生徒・大人合同会議が開催されます。